

孤独死の定義

MSN産経ニュースから 2012(平成24)年8月28日

札幌市 生活保護者43人が孤独死 (4、5、6月の三ヶ月で)

この記事には札幌市の発表で高齢者が多いとのコメントも記されている。

○ この記事について

孤独死数の現状を誤解しかねないので補足させていただきます。

札幌市の把握する数字は市営住宅に関する数字と生活保護者、介護認定者に関する数字でありこれで全てと思いつむのは問題です。

昨年この記事は猛暑となる前の段階の数字です。

昨年の7、8、9月は、北海道らしからぬ猛暑のため、孤独死も増加しております。

実は、札幌市の把握する数字よりも一般の一人暮らしの年配者の孤独死の方がはるかに多いのです。

○ 孤独死定義

国の基本となる孤独死の定義はありません。

新宿区が孤独死の定義を示しました。

- 1、言葉は、「孤立死」を使う。
- 2、二週間毎に見守る人がいない場合を「孤立死」とする。

一般の方達が聞くと疑問を感じると思います。

私もそうです。

1、について → 言葉の遊びみたいなものだ。

2、例えば二週間に一度、息子が尋ねてくる場合は、孤立死にならない。

普通常識的には、その部屋で亡くなっていて二日も三日も経っているなら**孤独死**です。

自治体は、右へ倣えの習性ですので札幌も他の都市も同じ解釈とするはずです。

○今後の動向

団塊世代の大量退職者が生まれ、非生産人口の増加は、各分野に影響をもたらします。
どこの自治体の孤独死を防ぐ取り組みもターゲットは高齢者です。

しかし、実際には54～64歳までの一人暮らしの男性の孤独死が多いのです。

共通点は家庭の壊れた男性です。

しかし、それ以上の懸念材料があります。

女性です。

長命故に痴呆を患った孤独死が一斉に出てきます。

後、5年でその傾向が顕著に現れます。

人口統計学は戦争や大天災でも無い限りはずれません。

的外れなデータ分析では本末転倒になります。

それが、この国にのしかかる新たな閉塞感となります。

2lala.net ツララネット(生活防衛サイト)から

豊かな老後のために <http://2lala.net/menu4.html>

孤独死早期発見・予防 <http://2lala.net/guidance.html>

講演活動 <http://2lala.net/menu4a.html>